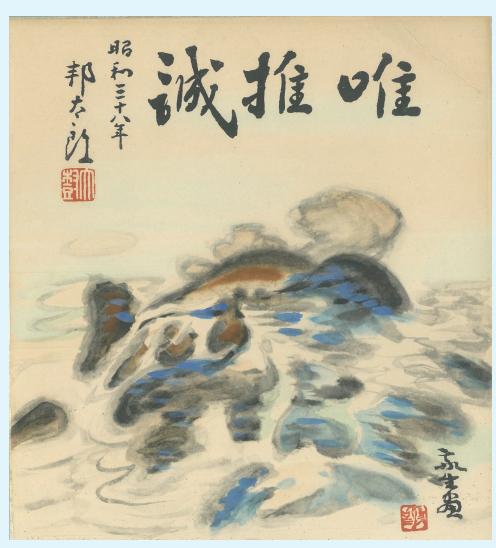




しもでしたが、会員の名簿の記載のみでした。これまでの東京小諸会の歴史を一覧でできるものではありません。もっとも東京小諸会の趣旨が「東京小諸会の信条にあります「会員相互の親睦を厚くし、その向上と郷土の発展並びに社会文化に貢献する」とありますので、その時々の親睦を重ねてきたので特段に記録に残す必要もなかつたのかかもしれません。「その時の時の思いを刻みながら」2日に東京小諸会は創立60年を迎えるました。なんらかの形



3月2日に東京小諸会創立60周年を迎えました。

## 東京小諸会 重点事業計画

- を図り小諸市の産業・銅光  
に貢献する。  
④ 東京小諸会総会への参加者の増加を図る。  
⑤ 東京小諸会創立六十周年記念事業の実施計画

第7号(春)



の返戻があり、実質的な負担額がなく、ふるさとの特産品を貢献味わい、ふるさとの小諸の貢献にもなります。また、納税額10万円以上の会員の集まりである東京小諸会独自の「ふるさと納税 ONE HUNDRED CLUB」の会員を募集しております。多數の参加お待ちしております。

# 東京小諸会 ふるさと納税



また東京小諸会では小中高生と市民の組織を拡充中です。第二第三のふるさととして四季折々に小諸でのふるさと生活を体験する企画です。「小諸ごともふるさと市民」の中から「小諸ごともふるさと大使(YACK)」を任命し、小諸の行事に参加したり、小諸の宣伝をさせていただきます。YACKの活躍は、四季報やHP等で配信します。



編集後記

「吾輩は猫である。名前はない。ない。」といふ  
生まれたが頃（とく）と見當（見当）かつ  
ぬことを片付けていたら小学校五年のときに  
んだが出てきた。夏の風景石の「アビ」一作

人々の間で話題にされ、「小説時代」という新たに  
世界が現出させた。この代作家でもある「吾輩は猫である」だ  
この漱石に寄稿を勧め文豪となるきっかけを作  
作のたのが存じ小諸と深い縁がある高浜光子である。  
子である。戦火を避け小諸で隠棲、約四年の間、

名小山栄一氏の援助のもと、小諸の風土を  
人々の間で話題にされ、「小説時代」という新たに  
世界が現出させた。この代作家でもある「吾輩は猫である」だ  
虚子の号を授つた虚子は子規の同級生漱石  
とも文政子規と俳諧「ホトトギス」を創刊し  
漱石も寄稿を依頼し「ホトトギス」をやりとりがあ  
た。その後精神的に落ちついた漱石が俳句連作  
俳体詩には興味を持つていたので小説の執筆  
を強制された。思ひがけず出来てきた原稿を  
かが遺産なく推敲して「吾輩は猫である」の一章で吾輩は猫である。  
に傾くと、この連作は「ホトトギス」をやりとりあ  
た。その後精神的に落ちついた漱石が俳句連作  
に決定、明治二十八年一月発行の「ホトトギス」  
巻頭に掲載された。この書が忽ち漱石の文才  
を文部省に轟かせた事は世人の記憶に残る。新しく  
漱石の文才を發揮した事は世人の記憶に残る。新しく  
の風景石の「アビ」一作で吾輩は猫である。  
孫の風景石を書き終えたのと、孫の風景石を書き終えたのは  
おる口火となり、延して漱石文学を生むこと  
うになつたことが誠に興味深し。現代を生む  
る心優る方々への心温歌ともなる。

「ホトトギス」を受け継いで活躍した虚子は  
孫の風景石を書き終えたのと、孫の風景石を書き終えたのは  
おる口火となり、延して漱石文学を生むこと  
うになつたことが誠に興味深し。現代を生む  
る心優る方々への心温歌ともなる。

「ホトトギス」を受け継いで活躍した虚子は  
孫の風景石を書き終えたのと、孫の風景石を書き終えたのは  
おる口火となり、延して漱石文学を生むこと  
うになつたことが誠に興味深し。現代を生む  
る心優る方々への心温歌ともなる。

「ホトトギス」を受け継いで活躍した虚子は  
孫の風景石を書き終えたのと、孫の風景石を書き終えたのは  
おる口火となり、延して漱石文学を生むこと  
うになつたことが誠に興味深し。現代を生む  
る心優る方々への心温歌ともなる。

原口慎一「小諸ふるやまと市民  
九州出身

# 第二藤村 詩碑除幕式 について

のうた二 詩碑建設実行委員長新井良男さん、総務委員長川原田雅夫さんの連名で封書をいただき、東京小諸会からもご協力をいただいた藤村の詩碑「千曲川旅情のうた二」の除幕式を令和4年4月17日(日)に建設地の大手小公園(藤村戸跡)で举行するとのことと、東京小諸会にも来賓の案内の予定でしたが、コロナ禍のため、実行委員と小諸市内の若干の来賓で実施することとです。懐古園の詩碑とならんで第二藤村詩碑との一対で小

成木へ創作の道へ向て 目  
目もあるものは改め、あるものは加へすべてこの詩集を書いたときの気持ちに近づけることを主とした」と述べている。このように同じ詩を何回も改題した例は他にみられない。藤村たるは他にみられない。藤村自身が「(この)二つの詩への思い入れが大変強く、愛していいたといふ表れであろうと思われる。

やさしく白き 手をうぶて  
りんごをわれにあだえしは  
うす紅の秋の實に  
人いの初しひはめなり  
わが心なき、ためきの  
その髪の毛にかかるとき  
たのしき恋の 盆を



戦中生まれで「リング」の歌を子守歌代わりに聞いた私は、果物の中でもりんごが大好物です。毎年暮れになると、おしい信州りんごを贈つて下さる方がいます。私の大学教員時代の教え子のC・Yさんで、彼女は最も優秀な教え子の一でした。今から17年前にななますですが、名古屋から春日部大学に転任した最初の授業で

Yさんがいました。最前列に座つて熱心にノートを取つている姿が目にとまり、話をすると、私と同年令で信州出身のことでした。C・Yさんは3年次になると私の主宰するゼミに入つてきました。彼女は小海線沿線の白田の出身で高校は小諸商業でした。お父様が戦死されてお母様が再婚、婚嫁家が商家であったため商業高校に進学し、東京の大手企業が脱サラで起業され成功、

若き頃の大学進学の夢を捨てきれず、社会人学生として頑張りたいとのことでした。言葉の通り真面目で熱心、模範生で授業には欠かさず出席し、成績も抜群でした。私のセミでも面倒見の良さから若いゼミ生に慕われ私も大いに助けられました。彼女は卒業式に和服姿で登壇し、最優秀の成績の学生に与えられる学長賞を受賞、その姿を父兄席でご主人がじっと見ておられたのが印象に残っています。

第7号(冬)

赤い帽子

りましたので、14人兄弟姉妹です。昔は子供の数が多くたのですが、それでも14人は多いと思います。

以前、オーストリアのウィーンへ旅行したとき、ハプスブルク家の女帝マリア・テレジアは王太子さま、王女さまを合わせて16人産んだと聞きましたが、母はマリア・テレジアに2人及ばなかつたかと思いました。

私が4、5歳の時だと思いましたが、父は与良町の家ではなく、一人でリンゴ畑の一軒家（番小屋と呼んでいました）に住むようになりました。現在の18号線バイパス沿いに女学校がありました。（昔の小諸高校）。現在は小諸消防署がある）学校の石垣に添つてリンゴ畑があり、畑の中に番小屋がありま

をし、コロナの炭火で焼きまし  
表題について、今回は子供の時  
の山菜取りについて思い出を述べ  
たい。山菜取りの中ではやはりキノコ採  
りが最も想い出が深い。キノコ採りを始めたのは深  
い小学生の時からではないかと思  
う。キノコ採りの場所も、今では車で簡単に行ける山林  
だが当時は徒歩で一日がかりで、まず、今的小諸高校のすぐ  
上の当時ごうどうやまととよんでいた場所から山に入り、  
小諸療養所周辺までの山林での採取が多くたが、時には住  
た。これらの場所は今では住

小山平六（与良町出身）

よると300種類も紹介されて  
いる。

山菜採りは、その後小諸を  
離れてからも季節に合わせて  
帰省しキノコ採りを楽しんでい  
るがそのほかの山菜として、蕨  
やタラノ芽採りなどの樂しかつ  
た思い出も多い。

田沢雄二郎（荒町出身）



ら通っていた金山さん父娘が小諸に移住（里帰り）して開いた方ファーティーである。代表は娘さんであり、父親とともにカフェーを経営している。小諸にある世界的に有名である丸山コーヒーのブランドや地元の銘菓や名品と共に駅舎での喫茶を楽しめる。小諸商業高校の生徒とのヨーロッパのコーヒー等も味わえる。筆者は毎月小諸訪問の時は妻と停車場ガーデンやこの小諸駅のまどに立ち寄り、小諸の新たな雰囲気を楽しんでいる。市民や観光客のふれあいの場として新たにスボットとなっている。

した。犬を一匹飼っていました。リンゴの番をするために住んでいたのかと思います。父のために母が毎日パンを焼いて、焼き上がるのそれを背負って番小屋まで届けるのです。与良の家から番小屋まで登り坂で400m位あるでしょうか。

がおいしく、樂みんであつた。

三

## コラム

長野県内の高校を訪問する際に、小諸では小諸高校と小諸商業を選びました。小諸商業高校では高校生の訪問者に対する挨拶など礼儀作法が行き届いているのに感心しました。進路の先生にC・Yさんをお話し、それがきっかけになつて話が弾んだことを思い出します。

元共榮大學副學長